

活動紹介!



東久留米児童合唱団そよかせ

「そよかせ」はその前身の「みずうみ」から数えておよそ50年も続いている歴史ある合唱団です。現在30名近くの保育園児から高校生まで幅広い年齢層のメンバーが活躍しています。

合唱曲はもちろん、童謡からJPOPまで様々なジャンルの曲を歌っています。練習の成果は、本館を会場にして、年2回、サマーコンサートとクリスマスコンサート（今月3日）で披露されます。



12月の催しから

- 2(土)
なでしこ幼稚園学習発表会 
 - 3(日)
・そよかせクリスマスコンサート
・みるまむクリスマスコンサート
 - 5(火)
季節のお菓子
シュトーレン レッスン
 - 9(土)
・八鼓会（荒馬座太鼓演奏）
・クリスマスライアーコンサート
 - 12(火)
パルシステム講演会
 - 16(土)
鮫島ピア / 教室発表会 
 - 17(日)
0歳から親子で楽しむコンサート
 - 19(火)
加賀ピア / 教室発表会
 - 21(木)
黒目川診療所講演会
 - 23(土)
片山ピア / 教室発表会
- ★成美教育文化会館は、12月28日（木）から1月6日（土）まで、年末年始休館日となります。

これらはあくまでも予定ですので変更もございます。一般の方の参加の可否等、詳細は主催者までお尋ねください。

会館事務室から



今月の話題 — 色の話

錦秋の候、山彩ると言われるよう色彩豊かな季節となりました。さて、日本では虹の色はと聞かれれば大体の人が7色と答えます。しかし、外国では必ずしもそうではありません。アメリカやイギリスでは6色、ドイツやフランスでは5色、ロシアやアフリカの一部では4色といった具合です。実際に見えている虹の色が違うわけではありません。その色を表現する言葉がない場合もありますが、その違いは、その色は何色に見ようとしているかという文化の違いによるものです。

太陽の色もそうです。日本では太陽のイメージは赤。幼い子が描く太陽は大体が赤です。欧米では、黄色が一般的です。オレンジや白、黄金色で表す国もあるようです。

日本では、古事記や日本書紀の古い時代には、色を表す言葉が黒、赤、青、白の4色しかなかったと言われています。今でも、青葉、青虫、青々とした野菜など、実際には緑色に見えているものでも、それを青と表現しているのは、緑のものを青とみなしていたころの名残りです。その後、黄、緑などと次第に種類が増えていきました。

ただし、「青丹（あおに）によし、奈良の都は咲く花の…」と万葉集にあるように、青丹（緑みのある土色）といった色彩表現が昔からあったことが分かります。こうした、いわゆる伝統色と言われるものには、萌黄（もえぎ）、朱鷺（とき）、菫（あかね）といった日本人の自然への豊かな感性を思わせる美しい風雅な色名がたくさんあります。日常の話の中にも取り入れたいものです。

